

クロスアッ
2002

隠ぺいの背景に閉鎖性

東京女子医大医師2人逮捕

東京女子医大病院の臓器手術ミスによる女児死亡事故は、執刀医2人の逮捕という事態に発展し、医療界に衝撃を与えた。病院側もただちに特定機能病院の指定の返上などを表明、厳しい立場に追い込まれた。人工心肺装置の操

「自分で学べ」研修なし

平柳明香さん(当時12才)で、手術部位に出る血を心臓を隔てる壁に穿孔がある「心房中隔欠損症」で、手術はそれを行って、人工心肺装置は手術で心臓を一時的に停止させるのに代り、体内に血液を循環させる一



医療ミスで逮捕を出した東京女子医大病院。28日、増入正志が撮影

東京女子医大の医療事故の経過

- 2001年 3月2日 平柳明香さんが心臓手術を受け、3日後に死亡
- 5月 両親が病院に死因究明求める
- 6月 病院が調査委員会を設置
- 10月 人工心肺の操作ミスと診療記録の改ざんを認める報告書を病院が作成、遺族に謝罪
- 12月29日 毎日新聞などが医療事故を報道。病院長が会見、医療ミス認める
- 2002年 1月8日 両親が医師5人を業務上過失致死容疑などで警視庁に告訴
- 9日 厚生労働省と東京都が病院を立ち入り検査
- 2月28日 特定機能病院の指定取り消しを検討する厚生労働省社会保険審査会医政分科会が病院長を呼び事情聴取
- 6月28日 警視庁が執刀医ら2人を業務上過失致死と証拠隠滅容疑で逮捕

なせ、ポンプの回転数を上げたのかという事件の「核心」(警視庁捜査幹部)をめぐり、任意の事情聴取の段階では、佐藤一樹、瀬尾和宏両容疑者の主張は大きく食い違ってきた。佐藤容疑者は「執刀医の手元を見えやすくするため回転数を80に上げたがだめで80でも不十分だった。もっと上げる」と(瀬尾容疑者)に3度指され100にした」と説明。瀬尾容疑者は「指示していない」と話し、警視庁は逮捕

で証拠隠滅を企てたといっている。両親容疑者を追及する。一方、人工心肺装置の回転数を上げたことで血液循環が止まった時、手術室にいた医師5人は原因や対処法を知らず、駆けつけた技士が空気弁の一部を操作して、トラブルを解消した。

医局間の風通し悪く

事故が明るみに出た昨年12月、厚生労働省は大学側に改善計画を提出させ、2月28日に社会保険審査会医政分科会を招集した。ヒアリングで病院側は、専任担当者を置く「医療安全対策室」の設置などの改善策を説明した。だが隠ぺいについては「担当医にももので組織的なものではない」と主張。最後まで詳細は明らかにしていない。また、事故は院内の安全管理委員会に報告されないと、医療事故防止に対するさまざまな体制が次々と明らかになった。

「管理・監督責任が厳しく問われる時代に担当医だけがやっていたという姿勢は問題だ」「病棟がマシな問題だ、医療を行う心がない」などと、分科

フル時の対応方法を知らないお粗末な医療体制に加え、さまざまな診療記録を組織的に改ざんし、隠ぺいを重ねた前例のない態様が、医師逮捕に踏み切った大きな理由といえる。事故の増加で医療不信が高まる中、病院の安全管理システムの抜本的な見直しや大学病院の閉鎖的な体制の改善も強く求められている。

「隠ぺい」の背景に閉鎖性。会では病院の姿勢を批判する発言が相次ぎ、特定機能病院の指定を取り消すべきなどの意見が大勢を占めていた。ミスや隠ぺいの背景には、医局制度で成り立つ大学病院の閉鎖性がある。医局トップの主任教授は部下の医師の他病院への派遣や昇進に絶対的な権限を持つ。主任教授は言わば「一国一城のある」で、医局間の風通しは悪い。同病院関係者は「医局制度を打破しない限り、閉鎖的な体質は変わらない」と言う。

「隠ぺい」の背景に閉鎖性。会では病院の姿勢を批判する発言が相次ぎ、特定機能病院の指定を取り消すべきなどの意見が大勢を占めていた。ミスや隠ぺいの背景には、医局制度で成り立つ大学病院の閉鎖性がある。医局トップの主任教授は部下の医師の他病院への派遣や昇進に絶対的な権限を持つ。主任教授は言わば「一国一城のある」で、医局間の風通しは悪い。同病院関係者は「医局制度を打破しない限り、閉鎖的な体質は変わらない」と言う。

「隠ぺい」の背景に閉鎖性。会では病院の姿勢を批判する発言が相次ぎ、特定機能病院の指定を取り消すべきなどの意見が大勢を占めていた。ミスや隠ぺいの背景には、医局制度で成り立つ大学病院の閉鎖性がある。医局トップの主任教授は部下の医師の他病院への派遣や昇進に絶対的な権限を持つ。主任教授は言わば「一国一城のある」で、医局間の風通しは悪い。同病院関係者は「医局制度を打破しない限り、閉鎖的な体質は変わらない」と言う。

「隠ぺい」の背景に閉鎖性。会では病院の姿勢を批判する発言が相次ぎ、特定機能病院の指定を取り消すべきなどの意見が大勢を占めていた。ミスや隠ぺいの背景には、医局制度で成り立つ大学病院の閉鎖性がある。医局トップの主任教授は部下の医師の他病院への派遣や昇進に絶対的な権限を持つ。主任教授は言わば「一国一城のある」で、医局間の風通しは悪い。同病院関係者は「医局制度を打破しない限り、閉鎖的な体質は変わらない」と言う。

女子医大小児心臓手術事故

ニュースの焦点

2002年6月29日 毎日新聞

ない。厚生省の医道審議会では医師免許の停止や取り消しを審査する権限があるが、対象は刑事罰が確定したり、診療報酬の不正請求をした医師に限られる。医師が自分の作成したカルテを改ざんしても罪に問われない。医師や看護士のカルテ改ざんや虚偽内容記入を認定した医療事故訴訟の判決は98年までの12年間で少なくとも17件あることが、弁護士グループの調査で明らかになった。

「隠ぺい」の背景に閉鎖性。会では病院の姿勢を批判する発言が相次ぎ、特定機能病院の指定を取り消すべきなどの意見が大勢を占めていた。ミスや隠ぺいの背景には、医局制度で成り立つ大学病院の閉鎖性がある。医局トップの主任教授は部下の医師の他病院への派遣や昇進に絶対的な権限を持つ。主任教授は言わば「一国一城のある」で、医局間の風通しは悪い。同病院関係者は「医局制度を打破しない限り、閉鎖的な体質は変わらない」と言う。